

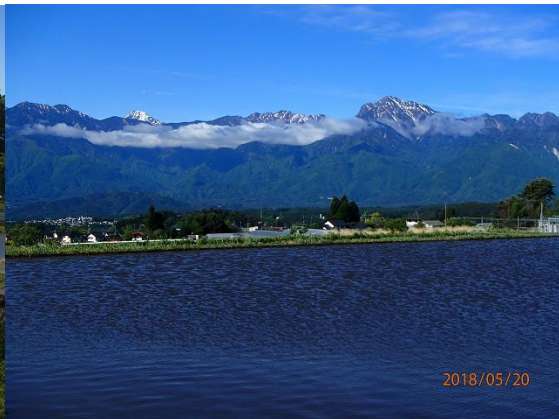
平成30年5月20日

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会
会員の皆様へ

《5月度農場便り》

「自然栽培の喜怒哀楽」

ここ八ヶ岳南麓も田んぼに水が入り、代掻きも終え稲苗が植えられかすかな緑の水田へと変身している状況です。今日は地元のフレンチレストラン「愛と胃袋」さんとの昨年続き共催の「おやこ田んぼ」の手植えによるイベントを行いました。20人の親子の参加を得て8畝の田んぼ（約800㎡）の田植を完了出来ました。子供たちは田植えどころでなく隣接する雑木林や川での遊びに夢中で田植えをしている親にお構いなく自然相手に遊んでいる姿は65年前の自分の姿を見ているようでした。フレンチレストラン「愛と胃袋」さんは三軒茶屋で営業していて子供たちのためにここに移住してきた若い家族です。たまたま小生の同級生の生家の古民家を紹介し店舗として昨年から営業開始して1年目を迎えているのです。田舎と都会との交流の場を「おやこシェア田んぼ」、地元の酒蔵「谷桜」さんに協力して頂き栽培している亀の尾での酒造りの「おとな呑み田んぼ」の田植えから収穫までの米づくりイベントを計画したのです。両親たちが不慣れな手植えによる田植えをしているのを横目にかえる採りなどにはしゃぐ子供たちの声が野山に響き楽しい一日でした。都会に住む若い家族達に年間を通して自然栽培のお米づくりに関わって頂ける環境を提供できることは会員の皆様のご協力があったることと感謝申し上げます。又元気に野山で遊ぶ子供たちの姿に「国の宝」と再認識したところです。一方、今年の陽気は気まぐれで農業にとっては難しいシーズンとなっています。4月25日には雨天からの急激な温度上昇でハウス管理が追いつかず育苗中の野菜苗3000本近くが再起不能、新規借入の田んぼの状態の悪さからトラクターも再起不能、思わぬ買換えを余儀なくされ困惑している状況が発生したのです。中古で揃えてきた農機も過酷な使用で限界がきたのでしょうか。申請中の無利息の農業近代化資金の融資の可否の判断を待っているところです。この田植の時期代掻きにはトラクターは欠かせぬ農機、近くの農家から借用せざるを得ませんがもしも小生と同様の致命的な故障が発生したらと心配しながらの代掻きに気が気ではありません。そんな中、本日神奈川の農業大学を卒業予定の自然栽培希望の学生が農場見学に来てくれました。当農場を新規就農の研修先、就農先として頂ける可能性があります。そんな楽しみも増えました。諸事稔って欲しいものです。



メール yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp

携帯080-3080-3017